# 「夢追い人通信」第19号「ベトナム・カンボジア紀行」(2015.11.12~16)

### その2 カンボジア編

第2日目 (続き)【11月13(金) シュムリアップ】 予定より30分早い16時35分ハノイ発 VN841 便で離陸。途中、日没の景色に思わずパチリ。 機内食は夕食代わり。カンボジア・シェムリアッ プ空港に1時間半余りで着陸。

入国にビザが必要。旅行会社に頼まず日本のカンボジア大使館にも行かず、メールで E ビザ(下の写真)を取得。この使い方はガイドブックには記載されてない。現地ではコイさんに聞いてもらってうまく行った。

着後空港出口でカンボジアのガイドのキム (**略称**)さんの出迎え。バスに乗りホテルを目







指す。今夜の宿はサエムホテル。今晩と明日の連泊。明日早朝アンコールワットの朝日を見るので早めに就寝。 シェムリアップ泊



### カンボジア事情



- •国土18万km2=日本の半分 人口 1500 万人
- •GDP(国内総生産)1.7兆円
- •ポルポトの大虐殺•内乱。何でも(犬も)食べて生き延びる。
- •内乱時敷設地雷の被害、今でも。
- •クメール人 90%、その 8 割以上農業従事。クメール人の大 半が仏教徒
- •人口 1位首都プノンペン。2 位シュリムアップ

第3日目 【 11月14 日(土) シュリムアップ アンコールワット(朝) アンコールトム 南大門 バイヨン寺院 バプーオン ライ王のテラス 象のテラス タ・プローム寺院 (ホテル休憩) アンコールワット(昼・夕) シェムリアップ】 ※ 23,115歩 バス

### 【世界遺産 アンコールワット(日の出)】1時間

日の出を見るので5時10分にバス出発。アンコールワットに着き事務所で写真撮影して世界遺産見学用のアンコールパス(US40\$:右写真)を作成。参道に近づくと人が増え、各国の観光客が日の出を見ようと押し寄せる。

アンコールワットは、ヒンドゥー教三大神の中のヴィシュヌ神に捧げられた寺院。また、スールヤヴァルマン二世を埋葬した墳墓でもある。仏教寺院とは異なる建築物。ハスのつぼみを模したといわれる仏塔が薄暗い中見えてくる。皆思







い思いの場所で、空が明るくなって くるのを見守る。やがて仏塔のシル エットがはっきりと見えてくる。静か な時間が流れる。鳥や馬の姿もあ る。寺院の前のハスの花が咲いてい









る池の前では、ベストショット を撮ろうと人の群がびっし り。 やっと撮影。

この瞬間が有名な朝焼けのショット。そのあと、ゆっくりと太陽が上がってきて、見る見るうちに空が明るくなる。天気も良く、理想的な朝焼け。日の出のアンコール・ワットを瞼に刻みホテルに戻り、朝食。8時にバスで、アンコールトムに向けて出発。

【世界遺産 アンコールトム】2時間











スールヤヴァルマン2世のあと、王都が陥落、まもなく **ジャヤルヴァルマン7世**が現れアンコール王朝は最盛期を迎える。7世は新しく**アンコールトム**(大きい城都)を建設。

アンコールトムは一辺が3kmの正方形の広大な敷地。東西南北に4つの大門と、戦い勝利した時に入る勝利の門と、敗れて戦死者と入る死者の門がある。

神の門、南大門から入る。両側に神々と阿修羅が大蛇を綱引きする坐像が並び、途中に川が流れる道幅のある参道を入る。途中象の群に会う。南大門には観光客の象乗り場がある。南大門は3mの菩薩像が東西南北4面にある。見上げると大きさがわかる。

南大門から入り、アンコールトムの中央に位置するバ









イヨン寺院。王都の守護寺院。第一回廊には当時の様子がわかるレリーフがある。(上の写真)49の巨大な観世音菩薩像の四面仏塔が立ち並ぶ姿は圧巻。左、下の写真) 観世音菩薩象は、







それぞれに表情 が異なる。 ガイドのキムさん が**京唄子**に似て いる顔があると



いう。確かに似ている。ごつごつした岩の石段を回り石像を見て歩く。石段でクメールの鮮やかな衣装の女性群。一緒にカメラに収めると有料。次のパプーオンに向かう途中、小猿を発見。パプーオンはピラミッド型の寺院。長さ200mの空中参道がある。我々は眺めただけで通り過ぎる。更に









歩くと広々とした王宮前広場に出る。ここに「**象のテラス」**と「ライ王のテラス」がある。「**象のテラス」**は ジャヤルヴァルマン7世が、王宮を整備し、閲兵に使われた長さ350mのテラス。象のレリーフが特徴。









ライオンとガルーダが一体化した聖獣がテラスを支えているレリーフもある。この辺は「**王のテラス」**と呼ばれる。「**ライ王のテラス」**は高さ6mのテラス。**三島由紀夫の戯曲『癩(らい)王のテラス』**の舞台だ。3月に





東京で戯曲を観にゆくのでぜひ見たかった所。三島はこのテラスにあった**ライ王像**を見て感動し、戯曲を作ったという。ライ病に罹った王(ジャヤルヴァルマン7世)という説がある。現在本物の**ライ王像**はプノンペンの国立博物館にある。レプリカがあるはずだが見当たらなかった。

### 【世界遺産 タ・プローム寺院】40分

タ・プローム寺院はジャヤルバルマン7世が母のために造った仏教僧院。後にヒンドゥー教寺院に改造された。建てられてから何度も増築されたため迷路のよう。スポアン(榕樹ようじゅ:ガジュマルみたい)が巨大に成長し寺院を押しつぶす勢い。樹木の生命力の凄さを感じる。ガイドのキムさんはアンジェリーナ・ジョリーが主演した「トゥームレイダー」の舞台になったと盛んに説明する。なかなか他にはない情景で神秘的

な雰囲気も感じる。











【世界遺産 アンコールワット(昼と夕日) 3 時間

クメール料理で昼食後、一旦ホテルに戻って1時間の休憩。休憩中にスコール。通り過ぎた後は、また青い空。日中は暑くて日本ではしない手ぬぐいを首に巻いて汗を取る程。思い思いの休憩を取り、リフレッシ

### ュして再度、昼間の姿と夕日を見るために**アンコールワット**に向けて再出発。

到着し、暑いせいか日の出の時より人の群は少ない。



池の前で、寺院が綺麗に映っている姿を眺め る。見事だ。朝とは異なる風情。



この後は、寺院 まで歩いて、内部 のレリーフ群を見 学。

第一回廊西面に は紀元前10世紀に 生まれたインド叙 事詩「マハーバー ラタ」や勧善懲悪 を説いたヒンドゥー 教の聖典、猿の軍 隊が登場する「ラ ーマーヤナ」の話 が岩壁に彫り込ん である。東面には 天地創造の「乳海 攪拌」や「ヴィシュ ヌ神と阿修羅の戦 い」、南面には「ス ールヤヴァルマン2 世軍の行進」、「天







国と地獄」、北面は「クリシュナと阿修羅の戦い」、「アムリタを巡る戦い」。十字回廊を抜けて第二回廊へ。 ここでは沐浴の跡地や仏像がある。

第三回廊に上がるかどうか、ツアーー行で相談。結論として上がって夕日もみることで決着。事前の説明書では第三回廊には上がらず、夕日は別の場所で見ると書いてあった。この回廊には中央祠堂があ





る。かつては手すりのない急勾配の石段を登ったという。転落死亡事故が出て閉鎖され、一時休止のあと 2011年に別のところに手すり付きの階段が設置され、ようやく登れるようになった。それでもかなりの急 勾配、手すりにつかまりながら登り降り。上りと下りの階段が分かれていて助かる。中央祠堂に着き、ぐるり









と問って、レリーフや仏像を見たり、眼下の景色や遠くの景色を楽しむ。









本当は第三回 廊から夕日を見た かったのだが、17 時近くになると係 員に退去を促され る。ガイドは大丈 夫といったが後で ガイドブックを見 ると見学は17時ま で。

しぶしぶ下に降 りて、夕日の時を 待つ。

やがて太陽が 沈み始め、あたり が夕日に赤く染ま る。朝日とは異 なり何か寂寥感が 漂う。





帰り道の草地で、トンボの群に遭遇。ガイドのキムさんはトンボを捕まえて子供のように喜んでいる。アンコールワットの移り変わる一日の様々な風景を思い出しながら、他に誰もいない道を歩き、別れを告げる。









夕食は、**宮廷舞踊「アプサラダンス」**を鑑賞しながら、カンボジアの宵を楽しむ。

シェムリアップ 連泊

第4日目 【 11月 15日(日) シェムリアップ バンテアイ・スレイ トンレサップ湖クルーズ シェムリアッ





宿泊ホテル・サエムホテル

ゆっくりスタートで、スーツケースを積み込んでホテルを9時10分出発。世界遺産バンテアン・スレイを目指す。

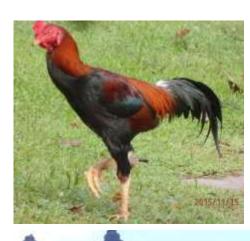


### 【世界遺産 バンテアン・スレイ】

クメール美術の至宝といわれる世界遺産バンテアン・スレイ。入口の近くでニワトリが出迎えてくれる。シヴァ神とヴィシュヌ神に捧げられ



た東西200m、 南北100m」周 囲400mのこじ んまりとした寺 院。外壁は赤色 砂岩とラテライ ト。「マハバーラ

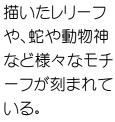












の物 語を

保存状態もよ <、**アンコールワ** 









ットなどのレリーフに比べはっきりしている。フランスの作家アンドレ・マルロー(文化大臣にもなった)が、あまりの美しさにレリーフを盗んで捕まった。「東洋のモナリザ」と呼ばれる優美な彫刻が残っている。そんなことがあってか、近づけないよう周り

を囲ってある。マルローは、その後、この事件をもとに小説『王道』を著した。バンテアン・スレイは狭いの

で、観光客がすれ違うのも一苦労。見事なレリーフがあるのでもっと時間をかけて見たかった。



バンテアン・スレイを見学したあと、お菓子の店 に行く。外では、お菓子作りを実演している。







中華料理の昼食をとったあとは、オールドマーケットで買い物タイム。川を渡った両側にお店がずらっと並

ぶ。みな思い思いにショッピングを楽しむ。店先をぶらぶら歩き。小綺麗な"顔が見える""ぬくもり感じる" カンボジア雑貨の店「クマエユーン」に入ると日本女性が店主のよう。NPO で売上をカンボジアの恵まれない人々に寄付しているという。心を動かされて、カン叔父さん(幼いころポリオで両足に障害がある)手作りココナッツを彫った象(小さな小物いれ)と絵葉書を買う。妻はシルクの手織り首飾りと小物いれを買う。





## 【トンレサップ湖クルーズ】1時間

最後の観光。広大なトンレサップ湖の1時間弱のクルーズ。ガイドのキムさんの説明では、**乾季でびわ湖の3倍、雨季には10~14倍**になるという。貸し切りのボートに全員15名が乗ってスタート。移り変わる両側





の風景を眼にしながら、船が進む。石油の販売所、学校・教会などがあり、更に行くと広がっていてまるで海に出たみたい。





ときどき漁船が通り過ぎる。途中、水上マーケットで下船。土産物を見たり、水上生活者の暮らしている空間を見学する。ポスターが貼ってあって湖の地図やこの湖でとれる魚類が掲げられている。300種ある





という。ここで捕れるのかワニが飼ってあり、販

売用に小さなワニの口を開けた頭部が沢山並べてある。ちょっと気味悪い。

小さな子の寝るハンモックの絵柄が「ドラえもん」、微笑ましい。建物の門に仏壇らしきものがある。



15 時半から16時半のクルーズを終え、船から降りるとあとは帰国へ向かう。







機内食が夜遅くになるので、空港に着く前に夕食をとる。名物麺「クイティウ」だ。さっぱりしていて喉ごしがいい。この地でよく飲んだ地ビール「アンコール」と合う。



お世話になったガイドのキムさん。アンコールワットでトンボを捕まえて喜んでいる写真(左)。カンボジア北西部、タイとの国境近くの生まれ。何歳か分からなかったが、子供っぽく見える。小さい頃は、内戦の影響を受け、食べるのに苦労、生き残るため、何でも食べたという。イヌを食べた話をしきりにして、喜んでいる。

ガイド試験は5年に1回実施され、35万円かかる。キムさんは最初の受験に失敗、費用(実はキムさんが家に入れたものを貯めておいた)を出してくれたお母さんにひどく叱られたという。2回目は合格。

アンコールワットの朝日を見にゆくのに寝坊して見られなかったり、あるときは意図的に遅れたという。こんなことを無邪気に話しているが憎めない。人を笑わすことが大好き。ベトナムのガイドのコイさんとは対照的。

日本語も上手で、「めっちゃ」という言葉の使い方など、じつにウマい。 日本に憧れているが一度も行ったことがないという。貯金がいくら以上ないといけないとか、日本に身元引受人がいることなど条件が厳し過ぎるからという。

カンボジアの将来については悲観的。汚職やワイロが横行していて頭にくると言っていた。ガイドの職業も長くは続けないという。次に何を目指すのかは、わからなかった。
バスで 18 時にシェムリアップ空港着。チェックインしてキムさんともお別れ。

機中泊

## 第5日目 【 11月 16日(月) ハノイ 東京(成田) 】 🐸 3,882 歩 , 空路 バス 電車

成田着は定刻通りの 7 時。スーツケースを宅配便に頼んで、行きはスカイライナー利用だが、帰りは安くて(1000 円)便利な八重洲行きのバスに乗る。いつも帰りのバスで爆睡。東京駅から JR で荻窪駅。駅からタクシーで昼前に帰宅。東京は暖かくて、温度差がそれほどなくて助かった。

#### <ベトナム・カンボジアの旅から帰って>

ベトナムもカンボジアも高温多湿の熱帯モンスーン気候。旅行のベストシーズンは乾季の11月~5月、なかでも11月~1月が雨も少なく、比較的過ごしやすいとのことで、11月中旬を選びました。対照的なガイド二人の案内で、限られた観光地、限られた時間でしたが、旅を楽しむことが出来ました。ツアーは全員で15名。男性6名、女性9名でした。

ヨーロッパとは異なり、アジアは、なぜか親しみが湧くのは同じアジア人だからでしょうか。

ベトナムとの付き合いは職場のフランス語会話教師がベトナム人、2 度目の職場の国際協力相手がベトナム。真面目で勉強熱心。若い人が多いのでこれからが楽しみ。カンボジアは内戦の影響が残っていて寺院の参道に地雷の被害を受けた人々が楽器を演奏しているのを見て、戦後の傷痍軍人を思い出した。ベトナムも戦後だけでもインドシナ戦争、ベトナム戦争と苦しみ抜いた。戦争や内乱は不幸しかもたらさないことを、ここでも実感した。

ついつい熱が入って、だいぶページ数が増えてしまいましたが、最後までご覧いただきありがとう ございました。次号は、日本の晩秋から冬への季節の移ろいをお届けしたいと思います。

2016年1月10日

井上 清彦